

# 子どもの携帯電話等の利用に関する調査結果（速報）について【ポイント】

平成20年2月25日  
文部科学省生涯学習政策局  
参事官(学習情報政策担当)付

## 1. 趣旨

子どもたちの携帯電話の利用実態や意識等について、児童生徒とその保護者及び学校を対象として調査を実施し、今後の取組推進のための基礎資料を得る。

## 2. 調査方法

無作為抽出した学校を対象として、調査票を郵送・回収。  
児童生徒と保護者に対しては、学校経由で調査票を配布・回収。

### 《調査対象》

- ・全国の小学6年生、中学2年生、高校2年生（合計：16,893人、回収率：61.8%）
- ・当該児童生徒の保護者（合計：16,893人、回収率：56.4%）
- ・全国の小・中・高等学校（合計：5,000校、回収率：43.5%）

### 《調査期間》

平成20年11月21日～平成20年12月15日

## 3. 調査結果の概要

### （1）子どもたちの携帯電話等の利用状況や意識

○利用頻度等は学年が上がるにつれ増加。個人差も大きい。

（例）携帯電話による1日平均のメール送受信件数

- ・「ほとんどメールは使わない」「10件未満」の合計：小6は74.8%、高2は41.3%
- ・「50件以上100件未満」「100件以上」の合計：小6は2.4%、高2は13.9%

○特に高2になると、情報発信手段としてもインターネットを積極的に活用。一方で、保護者は実態をあまり認識していない。

（例）自分のプロフの公開

- ・したことがある高校2年生：44.3%
- ・自分の子どもがしたことがあると思う高2保護者：16.5%

○携帯電話をよく使う子どもは、生活面への影響も見られる。

（例）携帯電話による1日平均のメール送受信件数等と、普段の就寝時間

- ・午後11時までに就寝する割合（中2）は、1日30件以上の中2では25.3%、1日30件未満の中2では42.8%、携帯を持っていない中2では46.6%

○インターネットを使えない機種・設定にしているかフィルタリングを使用している割合は、小6：63.3%、中2：43.2%、高2：15.6%。なお、子ども本人名義での契約は、小6：4.4%、中2：10.2%、高2：24.7%。

○携帯電話を持っている子ども、よく使う子どもは、携帯電話を積極的に評価。

（例）携帯電話を「よいことが多い」「どちらかといえばよいことが多い」と思う割合

- ・携帯電話を持っている子ども：小6は75.8%、中2は82.3%
- ・携帯電話を持っていない子ども：小6は44.4%、中2は59.1%

## (2) 家庭の環境との関係

○携帯電話に関する家庭のルールがある子どもは、利用マナーを身に付けている割合が多い。

(例) 自分に来たチェーンメールを転送すること

- ・何らかのルールがある中2 : 「してはいけない」が 72.1%
- ・特にルールがない中2 : 「してはいけない」が 58.3%

○子どもの携帯電話の使い方に保護者が注意を払っている場合、その子どもに携帯電話の利用マナーが身に付いている割合が多い。

(例) 友だちの住所や写真をインターネットの掲示板などに書き込むこと

- ・子どもの様子に気を付けている保護者の子ども(小6) : 「してはいけない」が 90.8%
- ・そのほかの保護者の子ども(小6) : 「してはいけない」が 75.9%

## (3) 携帯電話の危険性等に関する学習経験との関係

○有害サイトやネットいじめの問題など携帯電話等の危険性を学んだ経験は、「学校で教えてもらった」が各学年で最も多く(小6 : 52.8%、中2 : 79.9%、高2 : 78.4%)、小6は「保護者から教えてもらった」も多い(46.3%)。

○学んだ経験のある子どもは、フィルタリングを必要と思う割合が多い。

- ・学んだ経験のある小6 : 「必要」(条件付きを含む)が 75.1%
- ・学んだ経験のない小6 : 「必要」(条件付きを含む)が 62.5%

○学んだ経験のある子どもは、利用マナーが身に付いている割合が多い。

(例) 自分に来たチェーンメールを転送すること

- ・学んだ経験のある小6 : 「してはいけない」が 55.9%
- ・学んだ経験のない小6 : 「してはいけない」が 35.4%

○学んだ経験のある保護者は、子どもの使い方へ関心・注意を払う割合が多い。

(例) 子どもに携帯電話の危険性や注意点について説明する

- ・学んだ経験のある保護者(小6) : 「注意を払っている」が 85.3%
- ・学んだ経験のない保護者(小6) : 「注意を払っている」が 65.1%

## (4) 学校における取組状況

○携帯電話の利用に関する教育や、パソコンやインターネットに関する情報モラル教育に取り組んでいる学校が多い。

(小学校 : 89.0%、中学校 : 96.7%、高等学校 : 95.1%)

○学校非公式サイトやプロフなどの書き込みを、教職員等が定期的に確認している学校は、中学校、高等学校では5割近くに達する。

(小学校 : 20.0%、中学校 : 45.1%、高等学校 : 49.3%)